

体育とスポーツに対するイメージ

中 桐 伸 吾

はじめに.....	3
方 法.....	4
1 調査対象者	4
2 調査期日	5
3 調査方法	5
4 データ処理	5
結果と考察.....	6
1 全体の体育とスポーツに対するイメージ	6
(1) 全体の体育とスポーツのイメージの比較	6
(2) 全体の好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージの比較	11
2 男子の体育とスポーツに対するイメージ	21
(1) 男子の体育とスポーツのイメージの比較	21
(2) 男子の好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージの比較	26
3 女子の体育とスポーツに対するイメージ	30
(1) 女子の体育とスポーツのイメージの比較	30
(2) 女子の好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージの比較	34
4 男女別の体育とスポーツのイメージ	40
(1) 男女別の体育のイメージの比較	40
(2) 男女別のスポーツのイメージの比較	44
結びにかえて.....	44
参考・引用文献.....	47

は じ め に

近年、日本人の健康に対する意識は高く、その維持増進のため、スポーツを積極的に実践する人が増加する傾向にある。⁽¹⁾ 体育においても、生涯を健康に明るく充実したものとするため、生涯体育を推奨している。⁽²⁾ また、文部省も学習指導要領（保健体育）の基本方針の中で「生涯を通じて運動を実践する能力や態度を育てるとともに健康な生活を営むことができるようにすること」とし、学校体育の目標の一つに生涯体育を上げている。⁽³⁾ 筆者自身も、学校体育の1つの目標は生涯体育のための能力作りにあると考えている。⁽⁴⁾

このような状況の中でスポーツを推進するために、スポーツ行動の在り方を体系的に研究した報告もみられる。⁽⁵⁾ また、スポーツ行動とスポーツ愛好度が密接な関係にあるとの指摘もある。^{(6) (7)} さらに、卒業後のスポーツ行動が在学中の体育の愛好度に強く影響を受けるとの報告もある。⁽⁸⁾ これらの報告からも明らかのように、生涯体育を推進するには、在学中に体育に対して愛好的態度を育成させることが必要となる。

一般に大学生は、体育やスポーツに対して好意的態度を示していると報告されている。^{(9) (10)} しかしその反面、体育やスポーツに対して非好意的態度を示す者（一般に、“体育嫌い”とか“運動嫌い”と呼ばれる者）の存在も明らかである。ここで言う“体育嫌い”と“運動嫌い”とは同一概念として用いられる場合と、そうでない場合がある。例えば、「運動好きの体育嫌い」と言った時、運動と体育とは別の概念として用いられているのである。そこで、スポーツ（広い意味で運動と考えられる）と体育の概念の違いをイメージという面から考察したい。

ポウルディングは、「行動がイメージに依存している」とし、「ある人の過去経験の総合的結果としてイメージができあがる」と述べている。⁽¹¹⁾ また藤岡は、「人間はイメージ・タンクそのものの所有者であり、イメージによって人間は

4 体育とスポーツに対するイメージ（中桐）

行動し、イメージが行動の具体的な細部まで指導している⁽¹²⁾」としている。さらに水島は、「イメージとは感覚・知覚像でありながら、同時に行動の内化として私たちがその中に入りこんでいるようなものでもある。そしてそれは命題処理・情報処理に深くかかわっている。われわれはそのイメージによって、事象を予期し、行動を準備し、統制する⁽¹³⁾」と説明している。これらの諸説からも明らかなように、人間はイメージによって行動していると考えることができる。

このような立場に立つならば、学生の体育やスポーツに対する行動もイメージに依存していると考えることができる。

現在、イメージの測定法として広く知られているのは、オスグッドらの開発したセマンティック・ディファレンシャル法⁽¹⁴⁾（以下、SD 法と呼ぶ）である。ただし、SD 法が測定するイメージとは、意味論で言うところの内包的意味のうちの情緒的意味である⁽¹⁵⁾。

体育学においても、この SD 法を使った研究が多くみられる。舞踊の認知構造等の研究としては、金城ら⁽¹⁶⁾、頭川ら⁽¹⁷⁾、吉田⁽¹⁸⁾、長谷川ら⁽¹⁹⁾、の報告がある。また、体育授業等の研究や、スポーツに関する研究もみられる^{(20) (21) (22) (23) (24) (25) (26)}。

そこで本研究は、SD 法を使って、学生が感じている体育とスポーツのイメージの違いを、「情緒的意味」という面から考察することを目的とするものである。

方 法

1. 調査対象者

対象者は表 1-1 に示されているように、京都の国立大学 1 校、私立大学 2 校の大学生男女計 956 名であり、有効回答者数は 929 名（有効回答者率 97.2%）である。

表 1-1 調査対象

	K 国立大	O 私立大		G 私立大	
	男	男	女	男	女
調査対象者数	183	174	226	131	242
有効回答者数	178	170	223	127	231
有効回答者率	97.3%	97.7%	98.7%	96.9%	95.5%

2. 調査期日

調査は1987年 9 月から10月の体育授業時に実施した。

3. 調査方法

イメージの測定法として、オスグッドらが開発した SD 法を用いた。本調査で使用した両極性形容詞スケールは、花田らが考察した22対（7段階⁽²⁾評定）のスケールを借用したものである。なお、体育とスポーツとではスケールの順序等が異なるように配慮した。調査は体育授業時に実施した集合調査で、記入方法は強制速度法によって行なった。さらに、記入に際して、本調査は体育の評価とは一切関係がないことを説明し、各自の感じたままを記入するように要請した。

4. データ処理

各スケールは、“非常に” “かなり” “やや” “どちらでもない” の副詞による7段階の評定から成り、順に1から7までの数値を割り付けた。なお、データの処理は次の手順に基づいて行った。^{(28) (29) (30) (31)}

- (1) 各スケールごとに、その評定平均値 (M) と標準偏差 (SD) を求めた。
- (2) 2つの平均値の差の検定：対応のある2つの平均の差の検定は「変数間テスト」によりt検定を行なった。また、対応のない2つの平均の差の検定は「グループ間のテスト」によりF検定およびt検定を行なった。
- (3) 因子の抽出：調査対象者から得られた粗データによってスケール間の相関行列を算出した。因子の抽出は、共通性の推定値を1.000とした主因子解によ

って行なった。因子数は、固有値が1.000以上の基準により求められた。さらに、因子の解釈を容易にするために、カイザーの Normal Varimax 法により直交回転が施された。なお統計処理は、京都外国語大学の ACOS 610 を使用し、SPSSX のサブプログラムにより行なわれた。

結 果 と 考 察

1. 全体の体育とスポーツに対するイメージ

(1) 全体の体育とスポーツのイメージの比較

表1-2は大学生男女を合計した929名（以下、全体と呼ぶ）の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値(M)と標準偏差(SD), および、体育とスポーツの評定平均値の差の検定結果である。

評定は、スケール1を例にとるならば、「非常に危険な」「かなり危険な」「やや危険な」「どちらでもない」「やや安全な」「かなり安全な」「非常に安全な」の7段階から成り、順に1から7までの数値を割り付け、統計処理した。なお、各スケールの右側の形容詞は、体育やスポーツに対して比較的にポジティブな状態（左側はネガティブな状態）を表現するものを配列した。

表1-2で明らかなように、全体の体育とスポーツに対するイメージは、「黒い——白い」「長い——短い」「重い——軽い」を除くスケールにおいて有意な差が認められた。

次に、体育とスポーツに対するイメージを比較し、その情緒的意味の構造を知るため、全体の体育とスポーツに対するイメージのデータを同時に因子分析した。因子分析は主因子解を用い、固有値1.000以上に対応する因子をとりあげ、Normal Varimax 法により直交回転を行なった。その結果、表1-3に示したように、全分散に対する累加寄与率が48.4%で、3因子が抽出された。因子の解釈および命名は、負荷量が絶対値で、0.500以上のスケールをとり上げ、

表1-2 全体の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

N=929

		体 育		ス ポー ツ		差の検定	
		M	SD	M	SD	t 値	P
1	危 険 な—安 全 な	4.26	1.20	3.50	1.29	14.66	※ ※ ※
2	黒 い—白 い	4.95	1.19	4.92	1.33	0.87	
3	静 か な—激 し い	5.13	1.09	5.76	1.06	-13.44	※ ※ ※
4	退 屈 な—面 白 い	4.95	1.35	5.71	1.15	-15.55	※ ※ ※
5	かっこわるい—かっこよい	4.49	1.24	5.49	1.30	-19.69	※ ※ ※
6	長 い—短 い	3.81	1.19	3.73	1.21	1.53	
7	みにくい—美 しい	4.57	1.09	5.40	1.19	-19.08	※ ※ ※
8	痛 い—痛 くない	3.76	1.28	3.52	1.28	4.33	※ ※ ※
9	せ ま い—広 い	4.92	1.32	5.40	1.21	- 9.13	※ ※ ※
10	暗 い—明 る い	5.35	1.23	5.54	1.20	- 4.22	※ ※ ※
11	硬 い—軟 らかい	4.18	1.26	4.51	1.38	- 6.33	※ ※ ※
12	低 い—高 い	4.35	1.01	4.92	1.12	-13.04	※ ※ ※
13	苦 し い—楽 し い	4.77	1.41	4.59	1.76	2.52	※
14	遅 い—速 い	4.79	1.22	5.64	1.11	-18.13	※ ※ ※
15	女 ら し い—男 ら し い	4.80	1.04	5.14	1.14	- 8.34	※ ※ ※
16	小 さ い—大 き い	4.71	1.10	5.19	1.19	- 9.77	※ ※ ※
17	鈍 感 な—機 敏 な	5.37	1.26	5.93	1.03	-12.39	※ ※ ※
18	恐 ろ し い—平 気 な	4.61	1.28	4.36	1.31	4.77	※ ※ ※
19	弱 々 し い—たくましい	5.35	1.12	5.63	1.08	- 6.19	※ ※ ※
20	むずかしい—やさしい	3.57	1.30	2.96	1.30	10.92	※ ※ ※
21	重 い—軽 い	4.06	1.19	4.11	1.43	- 0.78	
22	嫌 い な—好 き な	4.83	1.49	5.66	1.16	-19.17	※ ※ ※

※※※ P<0.001 ※※ P<0.01 ※ P<0.05

表 1-3 全体の体育とスポーツの因子負荷量（回転後）

N=929

スケール	因子	F I	F II	F III
1	安全な—危険な	-.227	-.626	.048
2	白い—黒い	.315	-.454	-.151
3	激しい—静かな	.553	.395	.039
4	面白い—退屈な	.520	-.028	.623
5	かっこよい—かっこ悪い	.660	.059	.220
6	長い—短かい	.144	.078	-.586
7	美しい—みにくい	.697	-.090	.143
8	痛い—痛くない	.227	.623	-.152
9	広い—せまい	.666	-.116	-.064
10	明るい—暗い	.602	-.297	.223
11	軟らかい—硬い	.323	-.469	-.179
12	高い—低い	.651	-.015	-.168
13	楽しい—苦しい	.185	-.478	.528
14	速い—遅い	.671	.149	.126
15	男らしい—女らしい	.515	.363	.085
16	大きい—小さい	.693	.013	-.091
17	機敏な—鈍感な	.727	.167	.110
18	平気な—恐ろしい	-.046	-.589	.385
19	たくましい—弱々しい	.679	.254	.062
20	むずかしい—やさしい	.362	.592	-.240
21	重い—軽い	-.037	.634	-.112
22	好きな—嫌いな	.468	-.121	.656
固有値		5.868	3.450	1.321
因子寄与率(%)		26.7	15.7	6.0
累加寄与率(%)		26.7	42.4	48.4

それらの内容を中心に行なった（この基準は以下の因子分析においても同じ）。

第1因子(FI)に高い負荷量を示したスケールは、「機敏な——鈍感な」「美しい——みにくい」「大きい——小さい」「たくましい——弱々しい」「速い——遅い」「広い——せまい」「かっこよい——かっこ悪い」「高い——低い」「明るい——暗い」「激しい——静かな」である。これらのスケールは、体育やスポーツの動作等の速さや大きさ、さらに評価的な内容を含んでおり、オスグッドらの指摘するE(評価性)、P(力量性)、A(活動性)の3因子が混在化したものである。そこでこの因子を「力動・評価性」因子と命名した。

第2因子(FII)は、「重い——軽い」「安全な——危険な」「痛い——痛くない」「むずかしい——やさしい」「平気な——恐ろしい」が高い負荷量を示した。これらのスケールは、体育やスポーツが内在している危険性やケガ、困難というものを内容とするものと解釈される。そのため、この因子を「危険性」因子と命名した。

第3因子(FIII)は、「好きな——嫌いな」「面白い——退屈な」「長い——短かい」「楽しい——苦しい」が高い負荷量を示した。これらのスケールは、好き嫌いに代表されるように、体育やスポーツに対して快的な感情を有しているかどうかを内容としたものであると解釈できる。そこで、この因子を「嗜好性」因子と命名した。

以上、全体の体育とスポーツに対するイメージのデータをプールにして同時に因子分析した結果、情緒的意味構造として、「力動・評価性」「危険性」「嗜好性」の3因子が抽出された。これらの因子ごとに体育とスポーツのイメージの評定平均値をプロットしたのが図1-1である。形容詞の左右の配列は表1-2と同様である。なお、右端の※印は体育とスポーツに対するイメージの評定平均値の差の検定結果を示したものである。

図に見られるように、全体の体育とスポーツに対するイメージは、第2因子

10 体育とスポーツに対するイメージ（中桐）

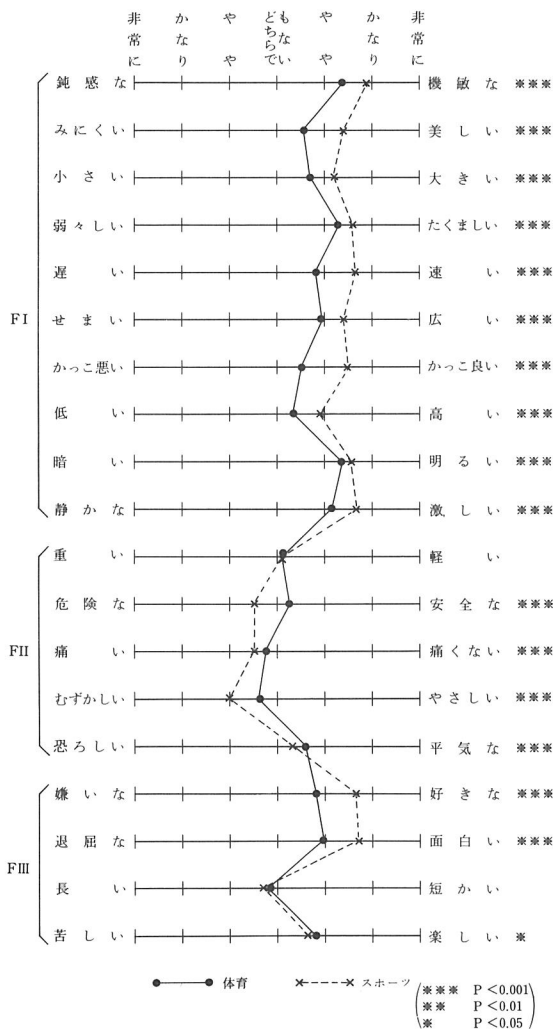


図 1-1. 全体の体育とスポーツのイメージの比較
— 因子別プロフィール —

の「重い——軽い」と第3因子の「長い——短い」以外のスケールにおいて有意な差が認められた。この結果、全体の学生が抱いているスポーツに対するイメージは、体育に比較して、より評価が高く好意的であり、同時に、活動的であり力強いものである。そしてその反面、危険性も高いものであると解釈できる。

しかし第3因子において、スポーツの方が体育よりも好意的なイメージを抱いている反面、スポーツが苦しいものであるとも感じていることがわかる。これは、「苦しいから嫌いだ」という時もあれば、「苦しいけど好きだ」という場合も存在することを示唆したものであると思われる。我々は体育やスポーツに限らず困難なことに直面した時、苦しさを感じるが、その困難さを克服した瞬間、その苦しさは充実感や満足感・喜びといった感情に転移することがある。そのため、「苦しい」と「楽しい」とは必ずしも対極の概念とは言い切れないのではなかろうか。

（2）全体の好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージの比較

加賀は、「好き——嫌い」は態度ないし、信念であり、それが言語的に表明されると意見となると述べている。⁶³⁾

そこで、体育の好きな者とそうでない者は、体育とスポーツに対してどのようなイメージを有しているかを調査した。男女計929名について、「嫌いな——好きな」のスケールによって、体育とスポーツに対する好嫌をクロス集計したのが、表1-4である。

体育に対して「非常に好き」「かなり好き」「やや好き」と答えた者は598名で、全体の64.4%を占める（以下、これらの者を好意群と呼ぶ）。「どちらでもない」と答えた者は164名で17.7%である。また、「非常に嫌い」「かなり嫌い」「やや嫌い」と答えた者は167名で、全体の18%である（以下、これらの者を非好意群と呼ぶ）。⁶⁴⁾ 非好意群の全体に占める割合は他の報告とほぼ一致するものである。

表 1-4 全体の体育とスポーツの好嫌

単位：人(%)

体育 スポーツ	好き 非常に	好 かなり	やや 好き	もど ちら でも ない	やや 嫌い	嫌 かなり	嫌 非常に	計
非常に 好き	96	70	55	17	8	3	5	254 (27.3)
かなり 好き	21	106	98	38	23	10	3	299 (32.2)
やや好き	4	12	110	58	34	15	5	238 (25.6)
どちらで もない	0	2	14	48	19	8	10	101 (10.9)
やや嫌い	2	4	2	2	9	5	3	27 (2.9)
かなり 嫌い	0	0	1	1	0	2	0	4 (0.4)
非常に 嫌い	0	1	0	0	0	1	4	6 (0.6)
計	123 (13.2)	195 (21.0)	280 (30.1)	164 (17.7)	93 (10.0)	44 (4.7)	30 (3.2)	929 (100.0)

一方、スポーツが「非常に好き」「かなり好き」「やや好き」と答えた者は791名で、全体の85.1%である。そして、「どちらでもない」と答えた者は101名で10.9%である。さらに、「非常に嫌い」「かなり嫌い」「やや嫌い」と答えた者は37名で、全体の4%である。この数字からも明らかなように、学生は体育とスポーツを比較した場合、スポーツにより好意的であることがわかる。

次に、男女別に体育とスポーツの好嫌をクロス集計したのが表1-5である。

表中の“その他”とは、体育とスポーツの両方もしくは一方を「どちらでもない」と答えた者である。「体育好」および「スポーツ好」とは、体育およびスポーツを「非常に好き」「かなり好き」「やや好き」と答えた者である。また、

表 1-5 男女別体育とスポーツの好嫌

単位：人(%)

	男	女	計
体育好・スポーツ好	316(66.5)	256(56.4)	572(61.6)
体育好・スポーツ嫌	9(1.9)	1(0.2)	10(1.1)
体育嫌・スポーツ好	39(8.2)	67(14.8)	106(11.4)
体育嫌・スポーツ嫌	5(1.1)	19(4.2)	24(2.6)
そ の 他	106(22.3)	111(24.4)	217(23.4)
計	475(100)	454(100)	929(100)

「体育嫌」および「スポーツ嫌」は、体育およびスポーツを「非常に嫌い」「かなり嫌い」「やや嫌い」と答えた者である。

体育とスポーツが共に好きだと答えた者は全体の61.6%であり、女子よりも男子に多い。そして、体育とスポーツが共に嫌いな者は全体の2.6%で、男子よりも女子に多い。さらに、体育が嫌いでもスポーツが好きという者は全体の11.4%であり、女子に多い。これとは逆に、体育が好きでもスポーツが嫌いという者も全体の1.1%とわずかではあるが存在する。この“体育が嫌いでもスポーツが好きな者”や“体育が好きでもスポーツが嫌いな者”の存在は、体育とスポーツの概念の違いを示唆するものである。そこで、好意群と非好意群の体育とスポーツに対するイメージの違いを検討したのが表 1-6 である。

好意群の体育とスポーツのイメージは、「暗い——明るい」を除くスケールに有意な差が認められた。全体の体育とスポーツの因子分析結果をもとにそのプロフィールを書いてみると（紙面の都合で割愛する）、図 1-1 の全体の体育とスポーツのイメージに大変酷似している。わずかに違いがみられるのは、「嫌いな——好きな」「退屈な——面白い」のスケールであり、全体の場合よりも差が小さい。

表 1-6 全体の好意群と非好意群の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

好意群：598名，非好意群：167名

		好意群						非好意群						好意群と非好意群 の差の検定	
		体 育		ス ポー ツ		体育とスポーツ の差の検定		体 育		ス ポー ツ		体育とスポーツ の差の検定		体 育	ス ポー ツ
		M	SD	M	SD			M	SD	M	SD				
1	危険な—安全な	4.37	1.22	3.48	1.30	※※※		3.99	1.18	3.40	1.24	※※※		※※※	
2	黒い—白い	5.08	1.17	4.94	1.37	※		4.69	1.24	5.04	1.29	※※		※※※	
3	静かな—激しい	5.19	1.06	5.86	1.04	※※※		5.19	1.09	5.73	0.98	※※※			
4	退屈な—面白い	5.51	1.08	5.98	1.06	※※※		3.49	1.18	5.17	1.20	※※※		※※※	※※※
5	かっこわるい—かっこよい	4.72	1.20	5.60	1.30	※※※		3.90	1.26	5.37	1.25	※※※		※※※	※
6	長い—短い	4.03	1.15	3.72	1.25	※※※		3.19	1.25	3.60	1.15	※※※		※※※	
7	みにくい—美しい	4.79	1.06	5.49	1.19	※※※		3.98	1.05	5.27	1.24	※※※		※※※	※
8	痛い—痛くない	3.90	1.32	3.49	1.32	※※※		3.42	1.21	3.47	1.20			※※※	
9	せまい—広い	5.08	1.32	5.52	1.21	※※※		4.57	1.29	5.37	1.06	※※※		※※※	
10	暗い—明るい	5.62	1.11	5.63	1.23			4.75	1.39	5.54	1.05	※※※		※※※	
11	硬い—軟らかい	4.32	1.24	4.50	1.40	※※		3.76	1.22	4.48	1.39	※※※		※※※	
12	低い—高い	4.44	0.98	5.00	1.13	※※※		4.13	1.06	4.83	1.08	※※※		※※※	
13	苦しい—楽しい	5.38	1.10	4.76	1.84	※※※		3.19	1.20	4.28	1.62	※※※		※※※	※※※
14	遅い—速い	4.96	1.20	5.77	1.09	※※※		4.35	1.29	5.47	1.05	※※※		※※※	※※※
15	女らしい—男らしい	4.89	1.07	5.23	1.17	※※※		4.65	1.01	5.07	1.04	※※※		※※	
16	小さい—大きい	4.83	1.10	5.27	1.23	※※※		4.50	1.08	5.19	0.99	※※※		※※※	
17	鈍感な—機敏な	5.55	1.19	6.08	0.94	※※※		4.98	1.37	5.78	1.08	※※※		※※※	※※※
18	恐ろしい—平気な	4.95	1.24	4.45	1.35	※※※		3.84	1.18	4.07	1.22			※※※	※※※
19	弱々しい—たくましい	5.47	1.07	5.74	1.06	※※※		5.13	1.12	5.59	0.98	※※※		※※※	
20	むずかしい—やさしい	3.73	1.35	2.92	1.33	※※※		3.11	1.21	2.95	1.19			※※※	
21	重い—軽い	4.23	1.10	4.01	1.48	※※※		3.66	1.38	4.38	1.39	※※※		※※※	※※
22	嫌いな—好きな	5.74	0.78	6.05	0.93	※※※		2.38	0.77	4.83	1.34	※※※		※※※	※※※

※※※ p<0.001

※※ P<0.01

※<0.05

一方、非好意群の体育とスポーツのイメージを比較するために、全体の体育とスポーツの因子分析により各スケールを分析してみると、「力動・評価性」因子および「嗜好性」因子に大きな差がみられる。特にその差は、評価や嗜好にかかわる「みにくい——美しい」「かっこ悪い——かっこよい」「暗い——明るい」「嫌いな——好きな」「退屈な——面白い」「苦しい——楽しい」といったスケールに顕著にみられる。すなわち、非好意群はスポーツに比べ、体育の評価を低く、しかも非好意的に感じているといえる。しかし、「危険性」因子における「痛い——痛くない」「恐ろしい——平気な」「むずかしい——やさしい」のスケールにおいては、有意差が認められない。このことは、非好意群が体育とスポーツとを同程度の危険性を持つものであると認識していると解することができる。

次に、好意群と非好意群が体育に対してどのようなイメージを有しているのかを知るために、全体の体育に対するイメージを因子分析した。その結果、全分散に対する累加寄与率が49.7%で3因子が抽出された（表1-7）。

第1因子（F I）に高い負荷量を示したスケールは、「機敏な——鈍感な」「たくましい——弱々しい」「明るい——暗い」「大きい——小さい」「速い——遅い」「広い——せまい」「高い——低い」「美しい——みにくい」「かっこよい——かっこ悪い」「激しい——静かな」「男らしい——女らしい」である。これらのスケールは表1-3の全体の体育とスポーツの因子分析結果の第1因子に「男らしい——女らしい」のスケールが加わったものであり、その内容はほぼ同一のものと見てよい。そこで、第1因子を「力動・評価性」因子と命名した。

第2因子（F II）は、「好きな——嫌いな」「楽しい——苦しい」「面白い——退屈な」「長い——短い」「平気な——恐ろしい」に高い負荷量が見られた。これは全体の体育とスポーツの因子分析結果の第3因子に「平気な——恐ろしい」のスケールが加わったものであり、その内容はほぼ同一とみなすことがで

表 1-7 全体の体育の因子負荷量（回転後）

N=929

スケール		因子	F I	F II	F III
1	安全な—危険な		-.156	.150	-.529
2	白い—黒い		.285	.020	-.446
3	激しい—静かな		.591	.003	.391
4	面白い—退屈な		.459	.721	-.038
5	かっこよい—かっこ悪い		.623	.307	.083
6	長い—短かい		.114	-.583	.111
7	美しい—みにくい		.633	.266	-.060
8	痛い—痛くない		.291	-.234	.601
9	広い—せまい		.670	-.027	-.174
10	明るい—暗い		.688	.259	-.179
11	軟らかい—硬い		.361	-.092	-.520
12	高い—低い		.636	-.088	-.129
13	楽しい—苦しい		.239	.758	-.246
14	速い—遅い		.673	.118	.093
15	男らしい—女らしい		.570	.069	.300
16	大きい—小さい		.675	-.062	.012
17	機敏な—鈍感な		.759	.097	.107
18	平気な—恐ろしい		-.091	.538	-.464
19	たくましい—弱々しい		.738	.060	.186
20	むずかしい—やさしい		.313	-.323	.556
21	重い—軽い		-.038	-.212	.584
22	好きな—嫌いな		.285	.790	-.165
固 有 値			5.978	3.661	1.295
因子寄与率(%)			27.2	16.6	5.9
累加寄与率(%)			27.2	43.8	49.7

きる。そこで第2因子を「嗜好性」因子と命名した。

第3因子（FIII）は、「痛い——痛くない」「重い——軽い」「むずかしい——やさしい」「安全な——危険な」「軟らかい——硬い」が高い負荷量を示した。これは全体の体育とスポーツの因子分析結果の第2因子に相当し、「平気な——恐ろしい」のスケールに代り、「軟らかい——硬い」が含まれている。しかしその内容は同一のものと解釈できる。そのため、第3因子を「危険性」と命名した。そして、好意群と非好意群の体育に対するイメージの評定平均値を因子ごとにプロットしたのが図1-2である。

図でもわかるように、好意群と非好意群の体育に対するイメージにおいて、有意な差が認められなかったのは、「静かな——激しい」のスケールのみであり、両群の間のイメージに明らかな違いがみられる。その違いは特に「嗜好性」因子に顕著であった。これらの結果より、好意群は非好意群より体育を、活動的で力強く評価の高い、しかも危険性が少なく好意的なものであると感じていることがわかる。

次に、好意群と非好意群のスポーツに対するイメージを知るために、全体のスポーツに対するイメージを因子分析した結果、全分散に対する累加寄与率が49.2%で4因子が抽出された（表1-8）。

第1因子（FI）は、「機敏な——鈍感な」「たくましい——弱々しい」「激しい——静かな」「速い——遅い」のスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールは活動の速さや強さを表現するものであるため、「活動性」因子と命名された。

第2因子（FII）は、「重い——軽い」「安全な——危険な」「平気な——恐ろしい」「むずかしい——やさしい」「痛い——痛くない」「楽しい——苦しい」「軟らかい——硬い」のスケールに高い負荷量がみられた。その内容は、スポーツが内在している危険性、困難ケガといったものを表現しているため、「危険性」

18 体育とスポーツに対するイメージ（中桐）

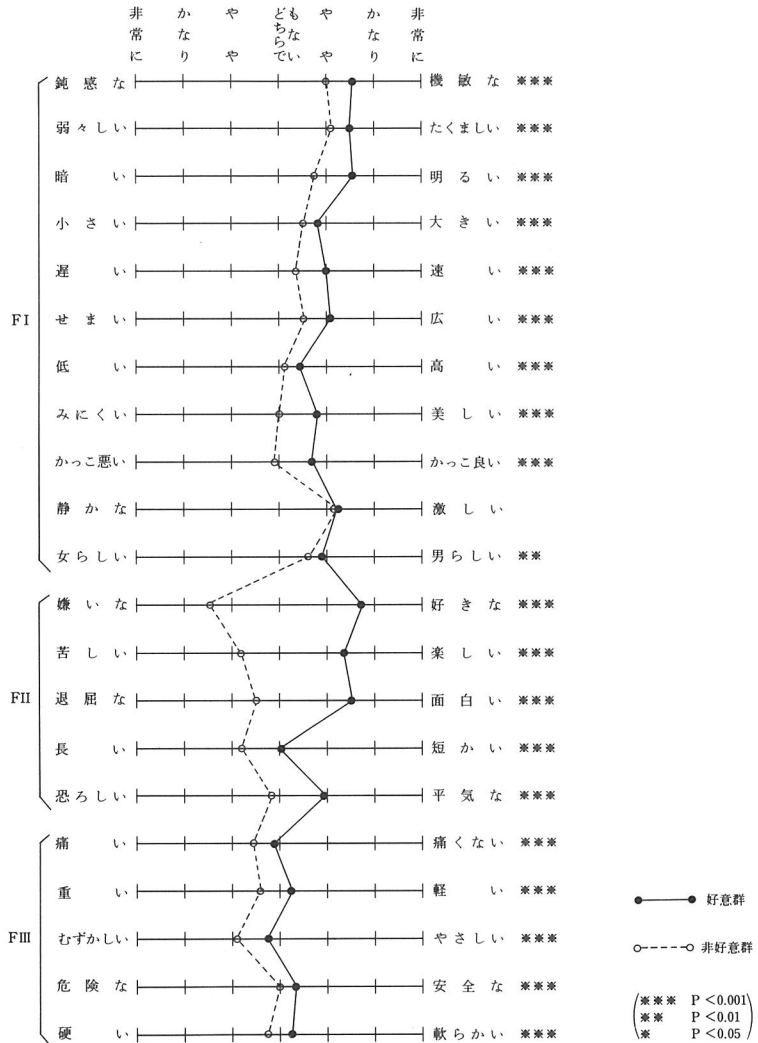


図 1-2. 全体の好意群と非好意群の体育のイメージの比較
—因子別プロフィール—

表1-8 全体のスポーツの因子負荷量（回転後）

N=929

スケール	因子	F I	F II	F III	F IV
1	安 全 な——危 険 な	-.343	.615	.047	.069
2	白 い——黒 い	.086	.385	.419	-.108
3	激 し い——静 か な	.641	-.214	.007	-.024
4	面 白 い——退 屈 な	.257	.011	.190	.692
5	かっこよい——かっこ悪い	.489	.092	.298	.204
6	長 い——短 か い	.039	-.086	.319	-.381
7	美 し い——みにくい	.396	.200	.489	.170
8	痛 い——痛 くない	.341	-.562	-.015	-.110
9	広 い——せ ま い	.110	-.002	.729	.239
10	明 る い——暗 い	.420	.482	.183	.302
11	軟 ら か い——硬 い	.124	.527	.171	-.279
12	高 い——低 い	.232	-.051	.672	-.079
13	楽 し い——苦 し い	-.000	.559	.045	.422
14	速 い——遅 い	.634	.007	.197	.090
15	男 ら し い——女 ら し い	.493	-.316	.171	.123
16	大 き い——小 さ い	.262	-.050	.708	.159
17	機 敏 な——鈍 感 な	.735	-.023	.189	.106
18	平 気 な——恐 ろ し い	-.146	.605	.042	.291
19	たくましい——弱 々 し い	.660	-.191	.260	.117
20	むずかしい——やさしい	.378	-.569	.211	-.136
21	重 い——軽 い	-.053	-.777	.147	.112
22	好 き な——嫌 い な	.303	.072	.248	.688
固 有 値		4.925	3.494	1.344	1.052
因子寄与率(%)		22.4	15.9	6.1	4.8
累加寄与率(%)		22.4	38.3	44.4	49.2

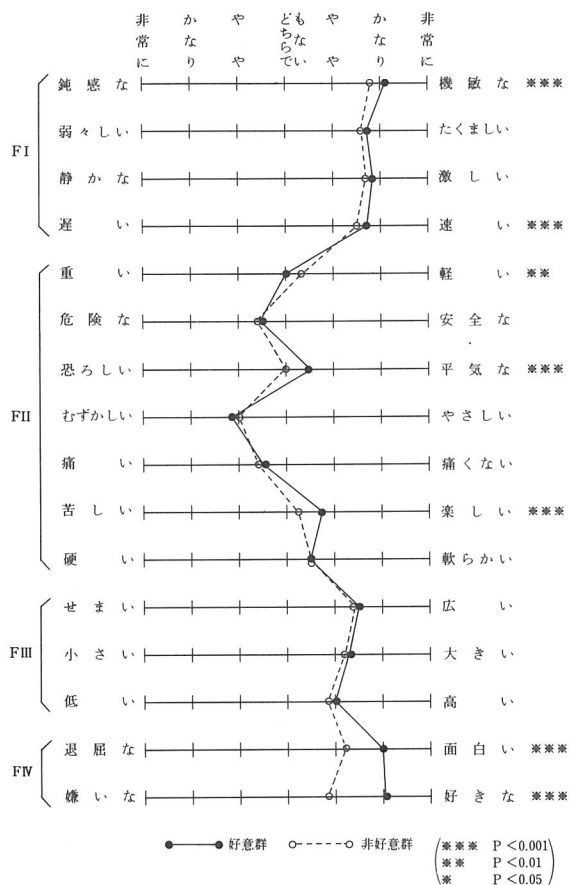


図 1-3. 全体の好意群と非好意群のスポーツのイメージの比較
—因子別プロフィール—

因子と命名された。

第3因子(FIII)は、「広い——せまい」「大きい——小さい」「高い——低い」といったスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールは、空間の広さ、大きさ、高さを表現していると解釈できる。そのため、「空間性」因子と命名された。

第4因子(FIV)は、「面白い——退屈な」「好きな——嫌いな」のスケールが高い負荷量を示した。これはスポーツに対する快的感情を表現するもので、「嗜好性」因子と命名された。

図1-3は好意群と非好意群のスポーツに対するイメージの評定平均値を因子ごとにプロットしたものである。

有意な差がみられたのは、第1因子では「鈍感な——機敏な」「遅い——速い」、第2因子では「重い——軽い」「恐ろしい——平気な」「苦しい——楽しい」、第4因子では「退屈な——面白い」「嫌いな——好きな」のスケールであり、第3因子では差がみられなかった。

以上の結果により、好意群と非好意群のスポーツに対するイメージは、「嗜好性」因子を除いて、一部に有意な差がみられるものの、ほぼ似通ったものと考えてよい。

2. 男子の体育とスポーツに対するイメージ

(1) 男子の体育とスポーツのイメージの比較

表2-1は男子学生475名の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値とその差の検定結果である。

表で明らかなように、全てのスケールにおいて有意な差がみられた。この結果より、男子学生が抱く体育のイメージとスポーツのイメージとは明らかに違うことがわかる。そこで男子の体育とスポーツの情緒的意味構造を知るために、

表2-1 男子の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

N=475

		体 育		ス ポー ツ		差の検定	
		M	SD	M	SD	t 値	P
1	危 険 な—安 全 な	4.36	1.25	3.40	1.30	13.13	※ ※ ※
2	黒 い—白 い	4.91	1.24	4.76	1.34	2.41	※
3	静 か な—激 し い	4.98	1.18	5.77	1.07	-11.51	※ ※ ※
4	退 屈 な—面 白 い	5.09	1.37	5.79	1.13	-10.52	※ ※ ※
5	かっこわるい—かっこよい	4.53	1.25	5.44	1.27	-13.18	※ ※ ※
6	長 い—短 か い	3.93	1.22	3.69	1.24	3.28	※ ※ ※
7	みにくい—美 し い	4.62	1.10	5.35	1.22	-12.46	※ ※ ※
8	痛 い—痛 くない	3.87	1.31	3.31	1.21	7.23	※ ※ ※
9	せ ま い—広 い	4.84	1.39	5.39	1.23	- 7.32	※ ※ ※
10	暗 い—明 る い	5.30	1.26	5.43	1.22	- 2.15	※
11	硬 い—軟 らかい	4.17	1.29	4.36	1.40	- 2.62	※ ※
12	低 い—高 い	4.31	1.02	4.90	1.14	- 9.41	※ ※ ※
13	苦 し い—楽 し い	4.99	1.37	4.57	1.80	4.22	※ ※ ※
14	遅 い—速 い	4.73	1.23	5.67	1.10	-14.24	※ ※ ※
15	女 ら し い—男 ら し い	4.87	1.11	5.39	1.16	- 8.59	※ ※ ※
16	小 さ い—大 き い	4.62	1.13	5.17	1.25	- 7.82	※ ※ ※
17	鈍 感 な—機 敏 な	5.27	1.28	5.95	1.03	-10.56	※ ※ ※
18	恐 ろ し い—平 気 な	4.72	1.28	4.23	1.34	6.50	※ ※ ※
19	弱 々 し い—たくましい	5.23	1.25	5.70	1.07	- 7.12	※ ※ ※
20	むずかしい—やさしい	3.67	1.36	2.80	1.29	10.73	※ ※ ※
21	重 い—軽 い	4.04	1.11	3.81	1.40	2.90	※ ※
22	嫌 い な—好 き な	5.11	1.42	5.74	1.14	-10.35	※ ※ ※

※※※ P<0.001 ※※ P<0.01 ※<0.05

男子学生全員の体育とスポーツに対するイメージのデータをプールにして同時に因子分析した。全分散に対する累加寄与率が55%で4因子が抽出された(表2-2)。

第1因子(FI)に高い負荷量を示したのは、「機敏な——鈍感な」「たくましい——弱々しい」「面白い——退屈な」「美しい——みにくい」「大きい——小さい」「カッコよい——カッコ悪い」「明るい——暗い」「好きな——嫌いな」「速い——遅い」「広い——せまい」「男らしい——女らしい」「激しい——静かな」「高い——低い」のスケールである。これらのスケールは体育やスポーツの動作等の速さや大きさ、美しさを表現しており、同時に快的感情をも含むものである(表1-3の「力動・評価性」因子と「嗜好性」因子とが融合したもの)。そこで、「力動・評価性」因子と命名された。

第2因子(FII)は、「恐ろしい——平気な」「危険な——安全な」「痛い——痛くない」「苦しい——楽しい」「むずかしい——やさしい」に高い負荷量がみられた。これらのスケールは、危険・困難・ケガといったものを内容とするため、「危険性」因子と命名された。

第3因子(FIII)では「長い——短い」のスケールのみが高い負荷量を示した。負荷量の基準を下げて他のスケールとの関係をみたが、解釈はむずかしく、因子の命名は困難である。

第4因子(FIV)は、「硬い——軟らかい」「重い——軽い」のスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールの内容から解釈するのはむずかしいが、あえて「重硬性」因子と命名した。

図2-1は男子学生の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値を因子ごとにプロットしたものである。

図に見られるように、全ての因子において有意な差が認められた。その結果、男子学生はスポーツのイメージを、体育よりも危険を伴うが、力強く活動的で

表 2-2 男子の体育とスポーツの因子負荷量（回転後）

N=475

スケール	因子	F I	F II	F III	F IV
17	機 敏 な—鈍 感 な	.742	.276	-.007	-.127
19	たくましい—弱々しい	.733	.234	.074	.020
4	面 白 い—退 屈 な	.721	-.105	-.362	.101
7	美 しい—みにくい	.710	-.049	.129	-.052
16	大 き い—小 さ い	.697	.030	.252	.062
5	かっこよい—かっこ悪い	.696	.136	-.008	-.069
10	明 る い—暗 い	.679	-.230	-.028	-.146
22	好 き な—嫌 い な	.669	-.253	-.340	.174
14	速 い—遅 い	.668	.259	.023	-.141
9	広 い—せ ま い	.650	-.063	.286	.090
15	男らしい—女らしい	.642	.214	.044	.148
3	激 しい—静 か な	.592	.457	-.058	-.056
12	高 い—低 い	.567	.100	.394	.012
18	平 気 な—恐ろしい	.012	-.705	-.125	-.120
1	安 全 な—危 険 な	-.216	-.689	.096	-.069
8	痛 い—痛くない	.270	.612	.067	.181
13	楽 しい—苦 しい	.335	-.611	-.260	-.001
20	むずかしい—やさしい	.369	.547	.238	.235
6	長 い—短 か い	.020	.175	.664	.044
11	軟らかい—硬 い	.179	-.113	.138	-.753
21	重 い—軽 い	.119	.328	.200	.708
固 有 値		6.679	3.066	1.303	1.049
因子寄与率(%)		30.4	13.9	5.9	4.8
累加寄与率(%)		30.4	44.3	50.2	55.0

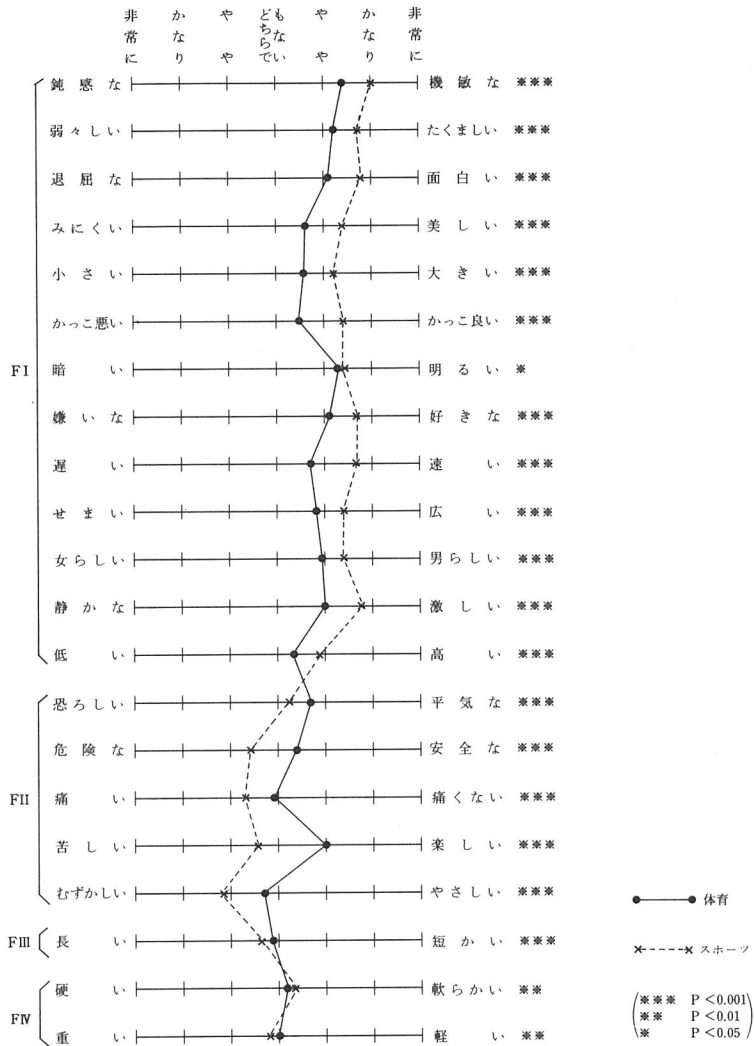


図 2-1. 男子の体育とスポーツのイメージの比較
—因子別プロフィール—

あり、快的で評価の高いものであると感じていることがわかる。

（2）男子の好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージの比較

男子学生が体育に対して「非常に好き」「かなり好き」「やや好き」と答えた者は338名であった（以下、これらの者を好意群と呼ぶ）。一方、体育が「非常に嫌い」「かなり嫌い」「やや嫌い」と答えた者は57名であった（以下、これらの者を非好意群と呼ぶ）。そこで、好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージを分析したのが表2-3である。

好意群と非好意群の体育のイメージを比較するために、男子学生の体育に対するイメージのデータを因子分析した。その結果、全分散に対する累加寄与率が57.3%で4因子が抽出された（紙面の都合で因子負荷行列表は割愛する）。

第1因子（FⅠ）は、「弱々しい——たくましい」「鈍感な——機敏な」「暗い——明るい」「小さい——大きい」「遅い——速い」「みにくい——美しい」「かっこ悪い——かっこよい」「女らしい——男らしい」「せまい——広い」「静かな——激しい」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は31.2%であり、「力動・評価性」と命名された。

第2因子（FⅡ）は、「嫌いな——好きな」「苦しい——楽しい」「退屈な——面白い」「長い——短い」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は15.1%であり、「嗜好性」因子と命名された。

第3因子（FⅢ）は、「危険な——安全な」「黒い——白い」「痛い——痛くない」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は6.1%であり、「危険性」因子と命名された。

第4因子（FⅣ）は、「重い——軽い」「硬い——軟らかい」「むずかしい——やさしい」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は4.9%であり、「重硬性」因子と命名された。

以上の結果より、男子の体育に対するイメージは、「力動・評価性」「嗜好性」

表2-3 男子の好意群と非好意群の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

好意群：338名，非好意群：57名

		好 意 群					非 好 意 群					好意群と非好意群 の差の検定	
		体 育		スポーツ		体育とスポーツ の差の検定	体 育		スポーツ		体育とスポーツ の差の検定		
		M	SD	M	SD		M	SD	M	SD		体 育	スポーツ
1	危 険 な—安 全 な	4.49	1.26	3.40	1.30	※ ※ ※	3.89	1.28	3.21	1.35	※ ※	※ ※ ※	
2	黒 い—白 い	4.97	1.24	4.81	1.37	※	4.54	1.39	4.68	1.40		※	
3	静 か な—激 し い	5.08	1.12	5.86	1.08	※ ※ ※	4.91	1.29	5.81	0.85	※ ※ ※		
4	退 屈 な—面 白 い	5.59	1.09	6.04	1.00	※ ※ ※	3.35	1.28	5.32	1.12	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※ ※
5	かっこわるい—かっこよい	4.74	1.21	5.59	1.23	※ ※ ※	3.81	1.37	5.35	1.25	※ ※ ※	※ ※ ※	
6	長 い—短 か い	4.09	1.22	3.66	1.26	※ ※ ※	3.28	1.31	3.61	1.31		※ ※ ※	
7	みにくい—美 し い	4.82	1.08	5.45	1.22	※ ※ ※	3.88	0.95	5.18	1.23	※ ※ ※	※ ※ ※	
8	痛 い—痛 くない	3.93	1.34	3.27	1.21	※ ※ ※	3.56	1.34	3.11	1.26			
9	せ ま い—広 い	4.99	1.38	5.51	1.20	※ ※ ※	4.33	1.42	5.35	1.09	※ ※ ※	※ ※ ※	
10	暗 い—明 る い	5.60	1.13	5.53	1.26		4.37	1.45	5.47	1.05	※ ※ ※	※ ※ ※	
11	硬 い—軟 らか い	4.23	1.29	4.32	1.43		3.68	1.30	4.11	1.51		※ ※	
12	低 い—高 い	4.40	1.02	4.99	1.15	※ ※ ※	4.00	0.98	4.89	1.11	※ ※ ※	※ ※	
13	苦 し い—楽 し い	5.48	1.08	4.66	1.90	※ ※ ※	3.26	1.33	4.40	1.62	※ ※ ※	※ ※ ※	
14	遅 い—速 い	4.88	1.21	5.79	1.06	※ ※ ※	4.25	1.34	5.61	1.01	※ ※ ※	※ ※ ※	
15	女 ら し い—男 ら し い	5.03	1.11	5.49	1.15	※ ※ ※	4.49	1.12	5.40	1.05	※ ※ ※	※ ※ ※	
16	小 さ い—大 き い	4.78	1.12	5.28	1.27	※ ※ ※	4.16	1.21	5.19	1.03	※ ※ ※	※ ※ ※	
17	鈍 感 な—機 敏 な	5.48	1.21	6.09	0.92	※ ※ ※	4.68	1.27	5.93	0.86	※ ※ ※	※ ※ ※	
18	恐 ろ し い—平 気 な	4.92	1.26	4.28	1.39	※ ※ ※	4.00	1.31	4.04	1.34		※ ※ ※	
19	弱 々 し い—たくましい	5.39	1.18	5.82	1.03	※ ※ ※	4.77	1.30	5.68	0.97	※ ※ ※	※ ※ ※	
20	む ず か し い—やさしい	3.69	1.40	2.74	1.28	※ ※ ※	3.40	1.35	2.77	1.30	※		
21	重 い—軽 い	4.09	1.06	3.70	1.40	※ ※ ※	3.86	1.34	4.00	1.51			
22	嫌 い な—好 き な	5.83	0.80	6.01	1.02	※ ※ ※	2.37	0.79	5.02	1.22	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※ ※

※※※ P<0,001

※※ P<0.01

※ P<0.05

「危険性」「重硬性」の4因子から構成されていることが明らかとなった。

次に、男子の好意群と非好意群の体育に対するイメージの評定平均値を因子ごとにプロットしたのが図2-2である。

全体の好意群と非好意群の体育のイメージと同様に、男子の好意群と非好意群の体育のイメージも明らかな違いをみせた。特にその違いは「嗜好性」因子に顕著にみられた。すなわち、好意群は体育を、非好意群よりも、力強く、たくましく、評価の高い、そして危険性が少ない、快的感情を伴うものと感じているのである。

次に、男子のスポーツに対するイメージの情緒的意味構造を知るため、男子のスポーツに対するイメージのデータを因子分析した。その結果、全分散に対する累加寄与率が54.4%で5因子が抽出された（紙面の都合で因子負荷行列表は割愛する）。

第1因子(FI)は、「鈍感な——機敏な」「かっこ悪い——かっこよい」「静かな——激しい」「遅い——速い」「女らしい——男らしい」「弱々しい——たくましい」「暗い——明るい」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比が24.8%で、その内容は、速さやたくましさ、評価といったものを表わしている。そこで、必ずしも妥当であるとは言えないが「活動・評価性」因子と命名された。

第2因子(FII)は、「恐ろしい——平気な」「危険な——安全な」「むずかしい——やさしい」「痛い——痛くない」「苦しい——楽しい」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は13.5%であり、その内容から「危険性」因子と命名された。

第3因子(FIII)は、「小さい——大きい」「せまい——広い」「低い——高い」「黒い——白い」「みにくい——美しい」のスケールに高い負荷量がみられ、全分散比の6.1%であった。その内容は、概ね、空間の広さ、大きさ、高さを表現するものであるため、「空間性」因子と命名された。

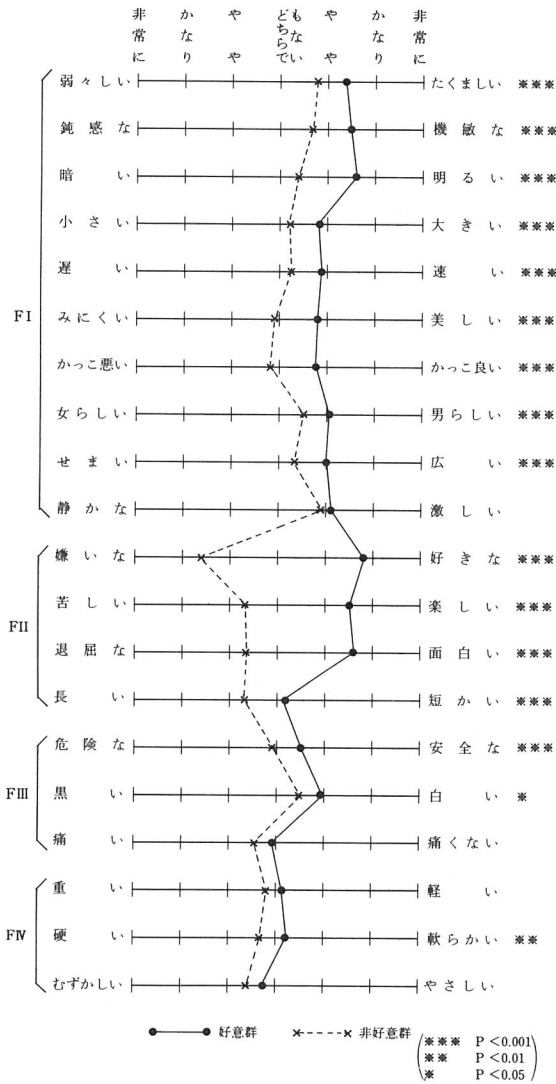


図 2-2. 男子の好意群と非好意群の体育のイメージの比較
—因子別プロフィール—

第4因子（FIV）は、「嫌いな——好きな」「退屈な——面白い」「長い——短かい」のスケールの高い負荷量がみられた。全分散比は5.2%であり、「嗜好性」因子と命名された。

第5因子（FV）は、「硬い——軟らかい」「重い——軽い」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は4.8%であり、「重硬性」因子と命名された。

以上の結果より、男子のスポーツに対するイメージは、「活動・評価性」「危険性」「空間性」「嗜好性」「重硬性」の5因子から構成されていることがわかる。

そこで、男子の好意群と非好意群のスポーツのイメージを比較したのが図2-3である。

図で明らかなように、有意な差が認められたのは「嗜好性」因子のみである。それ以外の因子では差が認められなく、男子の好意群と非好意群のスポーツのイメージは非常に似通ったものであることがわかる。

3. 女子の体育とスポーツに対するイメージ

(1) 女子の体育とスポーツのイメージの比較

女子学生の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値と、その差の検定結果を示したのが表3-1である。

女子の体育とスポーツのイメージに差がみられなかったのは、「黒い——白い」「長い——短かい」「痛い——痛くない」「苦しい——楽しい」「恐ろしい——平気な」「弱々しい——たくましい」のスケールである。

次に、女子の体育とスポーツのイメージを比較するために、女子の体育とスポーツに対するイメージのデータをプールして、同時に因子分析を行なった。その結果、全分散に対する累加寄与率が51.6%で、4因子が抽出された（表3-2）。

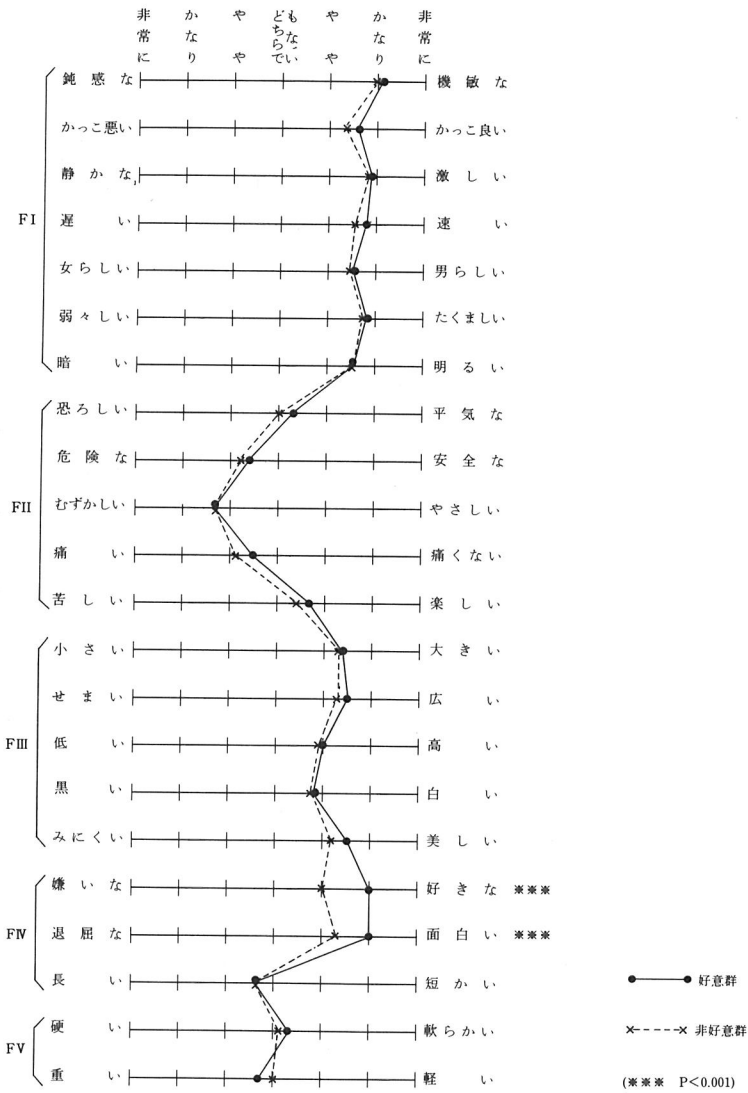


図 2-3. 男子の好意群と非好意群のスポーツのイメージの比較
—因子別プロフィール—

表3-1 女子の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

N=454

		体 育		ス ポー ツ		差の検定	
		M	SD	M	SD	t 値	P
1	危 険 な—安 全 な	4.15	1.13	3.60	1.28	7.63	※ ※ ※
2	黒 い—白 い	5.00	1.15	5.08	1.30	- 1.20	
3	静 か な—激 し い	5.28	0.95	5.74	1.05	- 7.36	※ ※ ※
4	退 屈 な—面 白 い	4.81	1.31	5.61	1.18	-11.47	※ ※ ※
5	かっこわるい—かっこよい	4.45	1.24	5.55	1.33	-14.68	※ ※ ※
6	長 い—短 か い	3.69	1.15	3.78	1.17	- 1.20	
7	み に く い—美 し い	4.51	1.07	5.47	1.17	-14.56	※ ※ ※
8	痛 い—痛 くない	3.64	1.25	3.73	1.31	- 1.30	
9	せ ま い—広 い	5.01	1.24	5.42	1.19	- 5.54	※ ※ ※
10	暗 い—明 る い	5.40	1.20	5.65	1.16	- 3.80	※ ※ ※
11	硬 い—軟 ら かい	4.20	1.23	4.68	1.34	- 6.37	※ ※ ※
12	低 い—高 い	4.38	0.99	4.94	1.07	- 9.02	※ ※ ※
13	苦 し い—楽 し い	4.54	1.42	4.63	1.71	- 0.87	
14	遅 い—速 い	4.87	1.21	5.61	1.12	-11.38	※ ※ ※
15	女 ら し い—男 ら し い	4.72	0.96	4.87	1.05	- 2.90	※ ※
16	小 さ い—大 き い	4.81	1.05	5.20	1.11	- 5.95	※ ※ ※
17	鈍 感 な—機 敏 な	5.47	1.24	5.92	1.04	- 6.97	※ ※ ※
18	恐 ろ し い—平 気 な	4.50	1.28	4.50	1.26	0.00	
19	弱 々 し い—たくましい	5.47	0.95	5.56	1.08	- 1.40	
20	むずかしい—やさしい	3.48	1.23	3.12	1.29	4.56	※ ※ ※
21	重 い—軽 い	4.09	1.26	4.42	1.41	- 4.23	※ ※ ※
22	嫌 い な—好 き な	4.53	1.52	5.58	1.17	-17.28	※ ※ ※

※※※ P<0.001

※※ P<0.01

※ P<0.05

表3-2 女子のスポーツの因子負荷量（回転後）

N=454

スケール	因子	F I	F II	F III	F IV
1	安全な—危険な	-.721	-.025	-.146	-.083
20	むずかしい—やさしい	.707	.140	-.099	.191
8	痛い—痛くない	.625	-.059	-.090	.228
18	平気な—恐ろしい	-.608	-.035	.376	-.049
21	重い—軽い	.601	-.215	-.231	-.036
9	広い—せまい	-.031	.693	.107	.151
11	軟らかい—硬い	-.106	.601	.171	-.269
12	高い—低い	.088	.599	.114	.265
16	大きい—小さい	.074	.593	.011	.343
7	美しい—みにくい	.032	.537	.432	.234
22	好きな—嫌いな	-.153	.238	.795	.060
4	面白い—退屈な	-.068	.224	.787	.092
13	楽しい—苦しい	-.505	.138	.529	-.068
19	たくましい—弱々しい	.121	.184	.108	.757
15	男らしい—女らしい	.176	.020	-.074	.750
17	機敏な—鈍感な	.103	.359	.279	.601
固有値		5.261	3.718	1.298	1.073
因子寄与率(%)		23.9	16.9	5.9	4.9
累加寄与率(%)		23.9	40.8	46.7	51.6

第1因子（F I）は、「安全な—危険な」「むずかしい—やさしい」「痛い—痛くない」「平気な—恐ろしい」「重い—軽い」のスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールの内容より、「危険性」因子と命名された。

第2因子（F II）は、「広い—せまい」「軟らかい—硬い」「高い—低い」「小さい—大きい」「みにくい—美しい」のスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールは、おおむね、空間を表わすものと解釈されるため、「空

間性」と命名された。

第3因子(FIII)は、「好きな——嫌いな」「面白い——退屈な」「楽しい——苦しい」のスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールは、体育やスポーツに対する快的な感情を表わすものであるため、「嗜好性」因子と命名された。

第4因子(FIV)は、「たくましい——弱々しい」「男らしい——女らしい」「機敏な——鈍感な」のスケールに高い負荷量がみられた。これらのスケールは、たくましさや速さを表現しているため、「活動性」因子と命名された。

図3-1は女子の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値を因子別にプロットしたものである。

因子別に体育とスポーツの評定平均値の差の検定結果をみると、有意な差が認められなかったスケールは、第1因子では「痛い——痛くない」「恐ろしい——平気な」、第3因子では「苦しい——楽しい」、第4因子では「弱々しい——たくましい」のみである。それ以外のスケールは有意な差がみられた。全体的に判断して、体育とスポーツのイメージには差があると考えることができる。すなわち、女子のスポーツに対するイメージは、体育よりも、危険性を含むが、空間性が大きく活動的であり、快的感情を伴うものと解釈できる。

(2) 女子の好意群と非好意群の体育とスポーツのイメージの比較

女子学生が体育に対して「非常に好き」「かなり好き」「やや好き」と答えた者は260名であった(以下、これらの者を好意群と呼ぶ)。一方、体育が「非常に嫌い」「かなり嫌い」「やや嫌い」と答えた者は110名であった(以下、これらの者を非好意群と呼ぶ)。そこで、好意群と非好意群の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値とその差の検定結果を示したのが表3-3である。

女子の好意群と非好意群の体育のイメージを比較するため、女子の体育に対するイメージのデータを因子分析し、その情緒的意味構造を検討した。その結

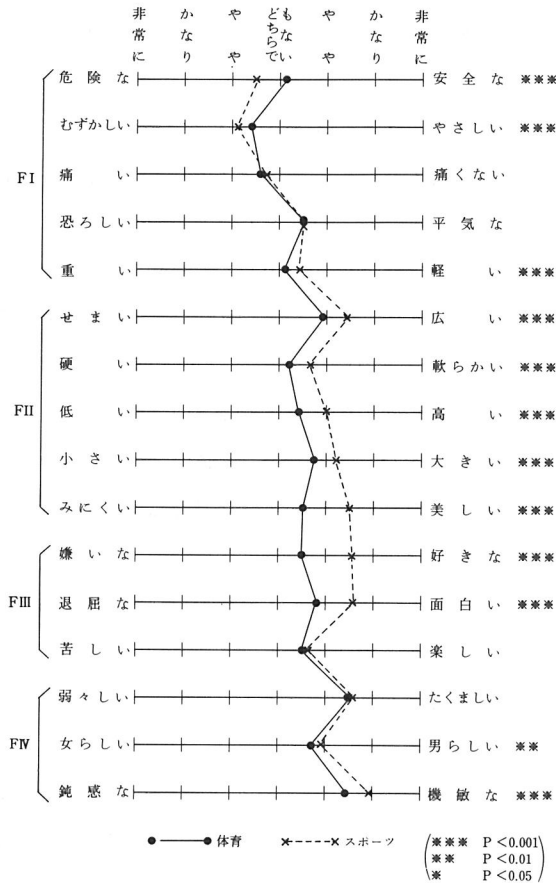


図 3-1. 女子の体育とスポーツのイメージの比較
—因子別プロフィール—

果、全分散に対する累加寄与率が51.9%で4因子が抽出された（紙面の都合で因子負荷行列表は割愛する）。

第1因子（FⅠ）は「嫌いな——好きな」「苦しい——楽しい」「退屈な——面白い」「恐ろしい——平気な」「長い——短い」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は24.7%であり、その内容より「嗜好性」因子と命名された。

第2因子（FⅡ）は、「弱々しい——たくましい」「鈍感な——機敏な」「女らしい——男らしい」「遅い——速い」「小さい——大きい」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は16.6%であり、「活動性」因子と命名された。

第3因子（FⅢ）は、「せまい——広い」「硬い——軟らかい」「暗い——明るい」「低い——高い」「黒い——白い」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は5.6%であり、「空間性」因子と命名された。

第4因子（FⅣ）は、「危険な——安全な」「痛い——痛くない」「むずかしい——やさしい」のスケールの高い負荷量がみられた。全分散比は5.1%であり、「危険性」因子と命名された。

以上のように、女子の体育に対するイメージは、「嗜好性」「活動性」「空間性」「危険性」の4因子より構成されていることが明らかとなった。そこで、女子の好意群と非好意群の体育に対するイメージの評定平均値を因子ごとにプロットしたのが図3-2である。

女子の好意群と非好意群の体育に対するイメージの評定平均値に有意な差が認められなかったのは、第2因子の「女らしい——男らしい」「小さい——大きい」と第4因子の「危険な——安全な」のスケールのみであった。

この結果より、好意群と非好意群の体育に対するイメージには差があると解釈できる。すなわち、好意群は非好意群より体育を、快的な感情を伴い、活動的で空間が大きく、危険の少ないものと感じていることがわかる。

次に、女子の好意群と非好意群のスポーツのイメージを比較するために、女

表3-3 女子の好意群と非好意群の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

好意群：260名，非好意群：110名

		好意群					非好意群					好意群と非好意群 の差の検定	
		体 育		スポーツ		体育とスポーツ の差の検定	体 育		スポーツ		体育とスポーツ の差の検定	体 育	スポーツ
		M	SD	M	SD		M	SD	M	SD			
1	危 険 な—安 全 な	4.23	1.15	3.59	1.30	※ ※ ※	4.05	1.13	3.50	1.17	※ ※ ※		
2	黒 い—白 い	5.21	1.06	5.10	1.36		4.77	1.15	5.22	1.19	※ ※ ※	※ ※ ※	
3	静 か な—激 し い	5.33	0.96	5.85	0.98	※ ※ ※	5.33	0.95	5.69	1.04	※ ※		
4	退 屈 な—面 白 い	5.41	1.05	5.90	1.12	※ ※ ※	3.56	1.13	5.09	1.24	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※ ※
5	かっこわるい—かっこよい	4.70	1.18	5.61	1.39	※ ※ ※	3.95	1.12	5.37	1.26	※ ※ ※	※ ※ ※	
6	長 い—短 か い	3.94	1.06	3.81	1.24		3.14	1.23	3.59	1.06	※ ※	※ ※ ※	
7	みにくい—美 し い	4.75	1.03	5.54	1.17	※ ※ ※	4.03	1.10	5.31	1.26	※ ※ ※	※ ※ ※	
8	痛 い—痛 くない	3.86	1.29	3.78	1.40		3.35	1.15	3.66	1.12	※	※ ※ ※	
9	せ ま い—広 い	5.20	1.22	5.52	1.21	※ ※ ※	4.69	1.20	5.37	1.05	※ ※ ※	※ ※ ※	
10	暗 い—明 る い	5.65	1.08	5.76	1.16		4.95	1.33	5.58	1.05	※ ※ ※	※ ※ ※	
11	硬 い—軟 ら か い	4.43	1.17	4.73	1.33	※ ※	3.80	1.18	4.67	1.29	※ ※ ※	※ ※ ※	
12	低 い—高 い	4.48	0.94	5.02	1.11	※ ※ ※	4.19	1.10	4.83	1.00	※ ※ ※	※	
13	苦 し い—楽 し い	5.25	1.12	4.88	1.74	※ ※	3.15	1.12	4.23	1.62	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※ ※
14	遅 い—速 い	5.08	1.18	5.74	1.13	※ ※ ※	4.40	1.27	5.40	1.05	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※
15	女 ら し い—男 ら し い	4.71	0.98	4.90	1.12	※ ※	4.74	0.94	4.88	0.99			
16	小 さ い—大 き い	4.88	1.08	5.25	1.17	※ ※ ※	4.68	0.97	5.18	0.97	※ ※ ※		
17	鈍 感 な—機 敏 な	5.65	1.17	6.07	0.97	※ ※ ※	5.13	1.40	5.70	1.18	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※
18	恐 ろ し い—平 気 な	4.98	1.21	4.66	1.28	※ ※ ※	3.75	1.11	4.07	1.16	※	※ ※ ※	※ ※ ※
19	弱 々 し い—たくましい	5.57	0.91	5.63	1.10		5.32	0.98	5.55	0.99		※	
20	むずかしい—やさしい	3.77	1.27	3.13	1.37	※ ※ ※	2.95	1.11	3.01	1.14		※ ※ ※	
21	重 い—軽 い	4.40	1.13	4.41	1.49		3.55	1.40	4.57	1.28	※ ※ ※	※ ※ ※	
22	嫌 い な—好 き な	5.62	0.74	6.09	0.81	※ ※ ※	2.38	0.77	4.73	1.39	※ ※ ※	※ ※ ※	※ ※ ※

※ ※ ※ P<0.001

※ ※ P<0.01

※ P<0.05

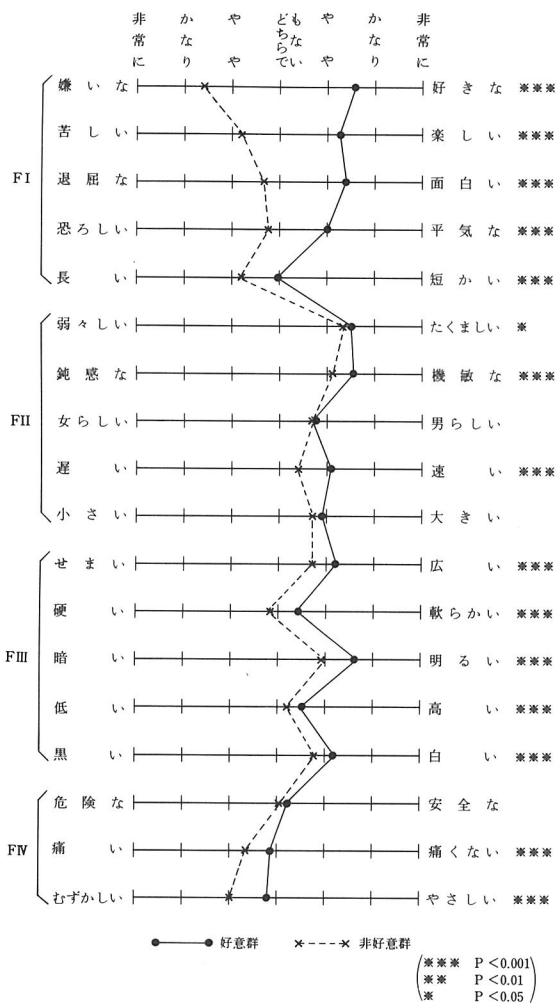


図 3-2. 女子の好意群と非好意群の体育のイメージの比較
— 因子別プロフィール —

子のスポーツに対するイメージのデータを因子分析した。その結果、全分散に対する累加寄与率が54.4%で、5因子が抽出された（紙面の都合で因子負荷行列表は割愛する）。

第1因子(FI)は、「弱々しい——たくましい」「女らしい——男らしい」「危険な——安全な」「痛い——痛くない」「鈍感な——機敏な」「静かな——激しい」「むずかしい——やさしい」「遅い——速い」のスケールに高い負荷量がみられ、全分散比の20.3%であった。これらのスケールは、力強さや速さ、そして、危険、ケガといったものを内容としているため、「活動および危険性」因子と命名された。

第2因子(FII)は、「重い——軽い」「暗い——明るい」「苦しい——楽しい」「黒い——白い」「恐ろしい——平気な」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は18.1%であった。これらのスケールはオスグッドの評価性に相当するため、「評価性」因子と命名された。

第3因子(FIII)は、「小さい——大きい」「低い——高い」「せまい——広い」「みにくい——美しい」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は6.2%で「空間性」因子と命名された。

第4因子(FIV)は、「退屈な——面白い」「嫌いな——好きな」のスケールに高い負荷量がみられた。全分散比は5.1%であり、「嗜好性」因子と命名された。

第5因子(FV)は、「長い——短い」「硬い——軟らかい」のスケールに高い負荷量がみられ、全分散比の4.8%であった。しかし、スケールの内容より因子の解釈が困難で、命名することができなかった。

図3-3は女子の好意群と非好意群のスポーツに対するイメージの評定平均値を因子別にプロットしたものである。

両群の間に有意な差が認められたのは、第1因子の「鈍感な——機敏な」「遅い——速い」、第2因子の「苦しい——楽しい」「恐ろしい——平気な」、第4因

子の「退屈な——面白い」「嫌いな——好きな」である。

これらの結果より、女子の好意群と非好意群のスポーツのイメージを比較すると、「嗜好性」因子において明らかな差がみられるものの、他の因子においては、ほぼ類似したイメージであると考えてよい。

4. 男女別の体育とスポーツのイメージ

(1) 男女別の体育のイメージの比較

表4-1は男女別の体育とスポーツに対するイメージの評定平均値とその差の検定結果を示したものである。

男女別の体育のイメージを比較するために、全体の体育のイメージの因子分析結果（表1-7）をもとに、因子ごとにその評定平均値と差の検定結果を示したものが図4-1である（紙面の都合で、標準偏差およびt値は割愛する）。

有意な差を示したスケールは、第1因子(FI)では「鈍感な——機敏な」「弱々しい——たくましい」「小さい——大きい」「せまい——広い」「静かな——激しい」「女らしい——男らしい」であった。第2因子(FII)では、全てのスケールに有意な差が認められた。第3因子(FIII)では、「痛い——痛くない」「むずかしい——やさしい」「危険な——安全な」のスケールに有意な差が認められた。

これらの結果を基に男女別の体育のイメージを比較すると、女子は男子よりも体育を“機敏でたくましく、活動的であり、危険なものである”と感じていることがわかる。

さらに、女子よりも男子の方が体育に対して好意的感情をもっていることもわかる。しかし、体育に対する評価という面では男女に差が認められなかった。

(2) 男女別のスポーツのイメージの比較

次に、男女別のスポーツのイメージを比較するために、全体のスポーツのイ

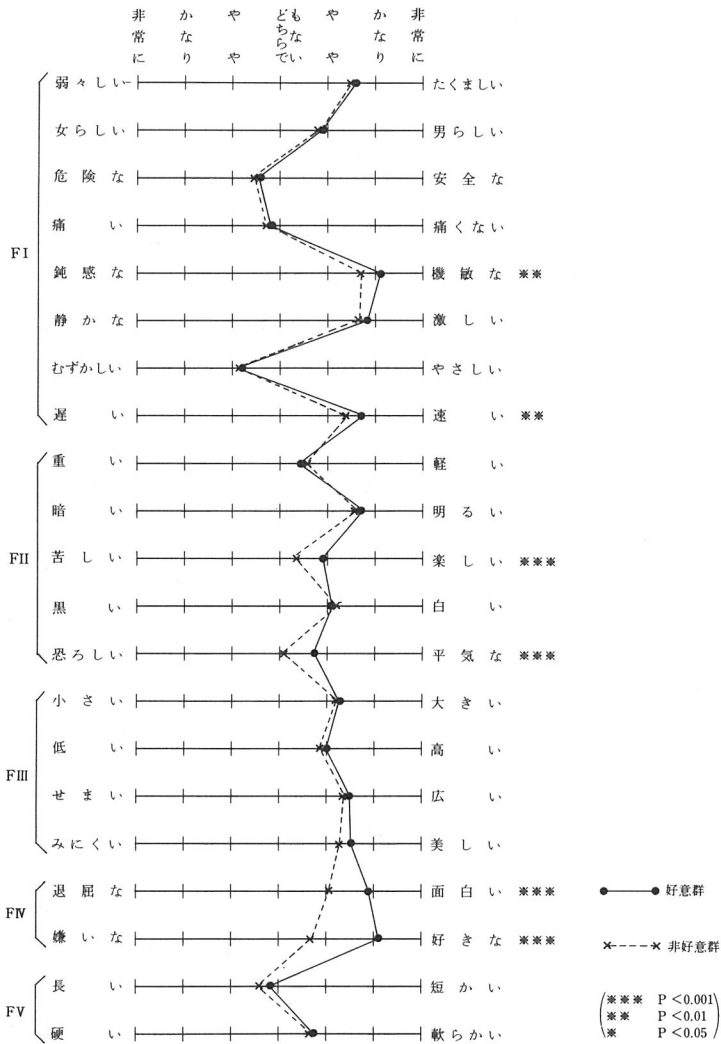


図 3-3. 女子の好意群と非好意群のスポーツのイメージの比較
—因子別プロフィール—

表4-1 男女別の体育とスポーツの評定平均値とその差の検定

男：475名

女：454名

		体 育			ス ポ ー ツ		
		男	女	差の検定	男	女	差の検定
1	危 険 な—安 全 な	4.36	4.15	※ ※	3.40	3.60	※
2	黒 い—白 い	4.91	5.00		4.76	5.08	※ ※ ※
3	激 し い—静 か な	4.98	5.28	※ ※ ※	5.77	5.74	
4	退 屈 な—面 白 い	5.09	4.81	※ ※ ※	5.79	5.61	※
5	かっこわるい—かっこよい	4.53	4.45		5.44	5.55	
6	長 い—短 か い	3.93	3.69	※ ※	3.69	3.78	
7	み に く い—美 し い	4.62	4.51		5.35	5.47	
8	痛 い—痛 くない	3.87	3.64	※ ※	3.31	3.73	※ ※ ※
9	せ ま い—広 い	4.84	5.01	※	5.39	5.42	
10	暗 い—明 る い	5.30	5.40		5.43	5.65	※ ※
11	硬 い—軟 ら か い	4.17	4.20		4.36	4.68	※ ※ ※
12	低 い—高 い	4.31	4.38		4.90	4.94	
13	苦 し い—楽 し い	4.99	4.54	※ ※ ※	4.57	4.63	
14	遅 い—速 い	4.73	4.87		5.67	5.61	
15	女 ら し い—男 ら し い	4.87	4.72	※	5.39	4.87	※ ※ ※
16	小 さ い—大 き い	4.62	4.81	※ ※	5.17	5.20	
17	鈍 感 な—機 敏 な	5.27	5.47	※	5.95	5.92	
18	恐 ろ し い—平 気 な	4.72	4.50	※	4.23	4.50	※ ※ ※
19	弱 々 し い—たくましい	5.23	5.47	※ ※ ※	5.70	5.56	※
20	むずかしい—やさしい	3.67	3.48	※	2.80	3.12	※ ※ ※
21	重 い—軽 い	4.04	4.09		3.81	4.42	※ ※ ※
22	嫌 い な—好 き な	5.11	4.53	※ ※ ※	5.74	5.58	※

※※※ P<0.001 ※※ P<0.01 ※ P<0.05

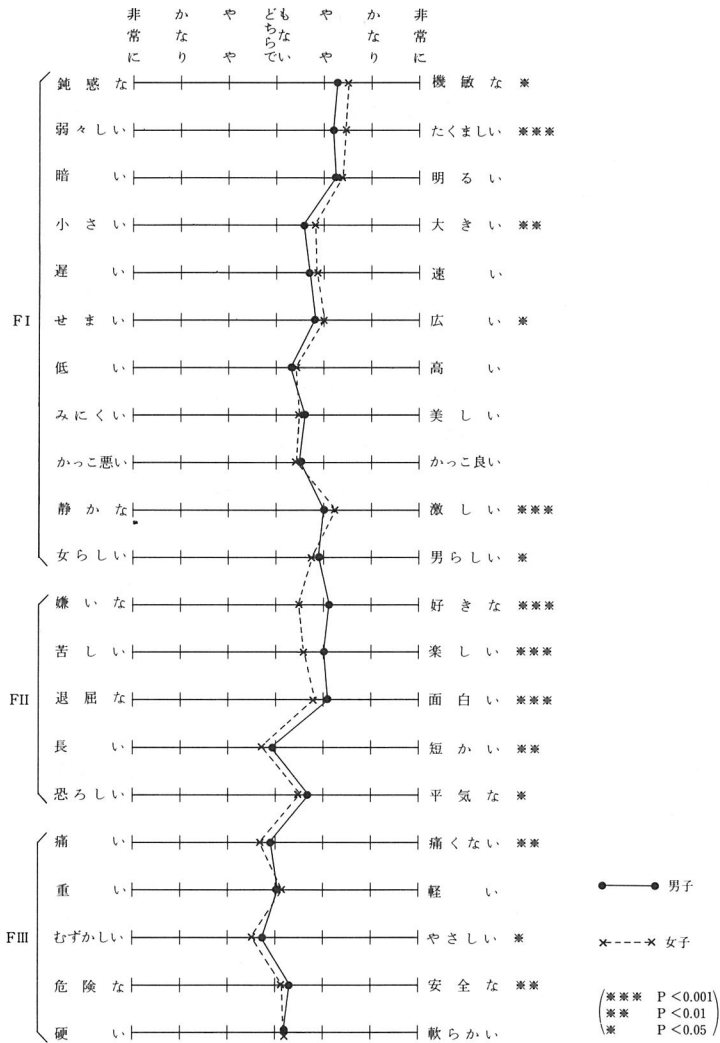


図 4-1. 男女別の体育のイメージの比較
—因子別プロフィール—

メージの因子分析結果（表1-8）を基に、因子ごとにその評定平均値とその差を検定結果を示したのが図4-2である。

男女別のスポーツのイメージで有意な差を示したスケールは、第1因子（F I）では「弱々しい——たくましい」であった。第2因子（F II）では「重い——軽い」「危険な——安全な」「恐ろしい——平気な」「むずかしい——やさしい」「痛い——痛くない」「硬い——軟らかい」のスケールに差が認められた。第3因子（F III）では差が認められなかった。第4因子（F IV）では、「退屈な——面白い」「嫌いな——好きな」のスケールに差が認められた。

これらの結果より、男女別のスポーツのイメージを比較すると、男子は女子よりもスポーツを危険ではあるが快的感情を伴うものと感じていることがわかる。しかし、スポーツのもつ活動性や空間的な大きさに対する認知には差が認められなかった。

以上、男女別に体育とスポーツのイメージを比較したところ、スポーツよりも体育の方にイメージの違いが多くみられることがわかった。

結びにかえて

先にも述べたように、人間はイメージによって行動していると考えられることもできる。このイメージという概念に非常に似ているものに態度という概念がある。この態度とは、行動のための心的・神経的準備状態であると考えられている。そしてクラッチらは態度の主成分として3つの成分を上げている。その第1の成分は認知的成分であり、評価の信念より構成されており、「好意的——非好意的」「望ましい——望ましくない」「善——悪」などである。第2は感情的成分であり、「愉快——不愉快」といったような感情的なものである。第3は行為傾向成分であり、行動的準備体制を意味するものである。これらの3つの成分が複合的、かつ、協和的に関係して態度を形成しているのである。

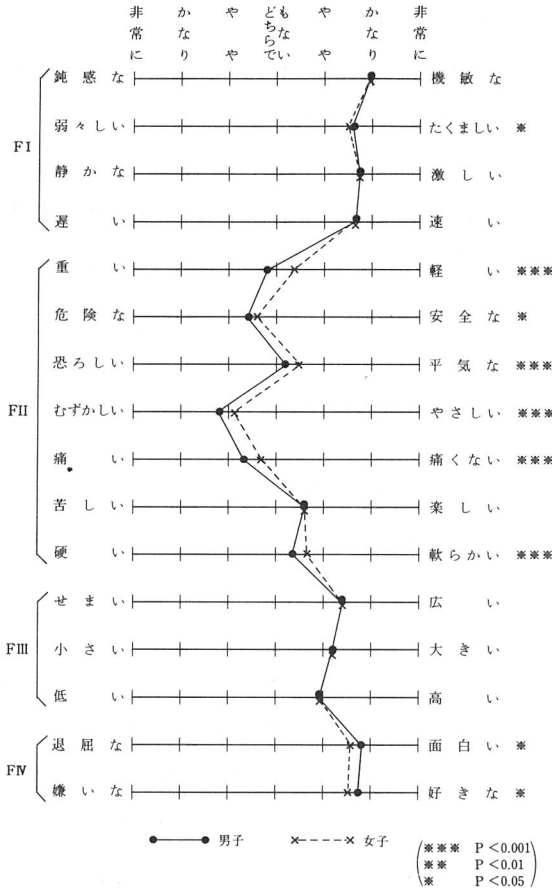


図 4-2. 男女別のスポーツのイメージの比較
— 因子別プロフィール —

クラッチらの考えから推論すると、人は対象に対して認知的に良い評価をもち、それに快感情を感じる時、接近行動をとると解することができる。本研究で測定した体育とスポーツのイメージは、クラッチらの主張する態度の認知的成分と感情的成分に相当すると思われる。そこで、体育とスポーツのイメージを態度という面からも考えてみたい。

結果と考察のところで述べたように学生の体育とスポーツのイメージを比較したところ、明らかな差がみられた。すなわち、学生は体育よりもスポーツを、より高く評価し、快感情を有するものであると感じていることがわかる。これは、学生が体育よりもスポーツに、より好意的な態度を示していると解釈できる。

次に、体育に対して好意的な者と非好意的な者の体育およびスポーツのイメージを比較したところ、スポーツのイメージにはほとんど差がみられなかったが体育のイメージには明らかな差がみられた。すなわち、体育に対して好意的な者は非好意的な者よりも体育を、より高く評価し、快感情を伴うものと感じていることがわかる。

全ての人に生涯体育を实践させるには、在学中に体育に対して好意的態度を育成することが必要である。そのため、体育嫌い(体育に対して非好意的態度を示す者)が生起する原因について、多くの研究がなされている。波多野らは、「体育授業ざらい」を生起させる要因として、①体育授業により自己の能力に強い劣等感を感じていること、②体育授業で、運動をする楽しさや技術が向上する喜びを経験できないこと、③体育教師の性格、指導理念、指導法に対して強い否定感情をもつこと、の3つを上げている。³⁷⁾ また近藤は、体育ざらいの原因の多くは、教師の指導に問題があると指摘している。³⁸⁾ これらの見解からも推察できるように、体育に好意的な者と非好意的な者の体育のイメージの差は、体育の教師自身の問題や授業内容にその原因の一端があると思われる。

本研究によって、学生の体育とスポーツに対するイメージに差がみられることが明らかとなった。しかし、このイメージの差が何に起因しているかは、本研究で明らかにすることができなかった。今後の課題としたい。

本稿を終わるにあたって、京都外国語大学の辻浅夫教授、大谷大学の中森一郎専任講師、京都女子大学の吉岡文雄教授および京都産業大学の石川俊紀教授に調査に際し、御協力を頂いた。また、データ処理において、京都外国語大学の村山皓司助教授(政治学)に多大の御助言を頂いた。ここに深甚の謝意を表すものである。

参考・引用文献

- (1) 文部省体育局スポーツ課「スポーツは実行の時代——体力・スポーツに関する世論調査から——」健康と体力, 12-2 : 14-17, 1980.
- (2) 体育原理研究会（編）『生涯体育論 体育の原理第8号』不昧堂出版, 1975.
- (3) 文部省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育論』一橋出版株式会社, P 3-4, 1987.
- (4) 中桐伸吾「高校の体育授業に対する生徒の興味」研究紀要第4号（日本体育学会京都支部 体育原理・体育史専門分科会）: 1~21, 1978.
- (5) 徳永幹雄・金崎良三・多々納秀雄・橋本公雄『スポーツ行動の予測と診断』不昧堂出版, 1985.
- (6) 荒井貞光・松田泰定・東川安雄「スポーツ行動に関する実証的研究（IV）——集団参加行動について——」日本体育学会第28回大会号, 1977, P 145.
- (7) 金崎良三・多々納秀雄・徳永幹雄・橋本公雄「スポーツ行動の予測因に関する研究（1）——社会学的要因について——」日本体育学会第31回大会号, 1980, P 227.
- (8) 中島豊雄「卒業後のスポーツ行動と学校体育」学校体育, 33-1 : 138-41, 1980.
- (9) 徳永幹雄・佐久本稔「大学における体育・スポーツの社会学的研究——とくに学生の体育・スポーツに対する態度について——」体育学研究, XII-5 : 32, 1968.

- (10) 岡野崇彦・平田久雄・小山秀哉・戸刈晴彦・渡辺慶寿「大学正課体育実技の教育効果に関する研究——（５）体育実技授業に対する態度——」体育学紀要第6号（東京大学）：27-32, 1972.
- (11) K. E. ボウルディング. 大川信明（訳）『ザ・イメージ』誠信書房, P 5, 1982.
- (12) 藤岡喜愛『イメージと人間』日本放送出版協会, P 69, 1980.
- (13) 水島恵一『人間性心理学大系 第9巻 イメージ心理学』大日本図書, P 40, 1988.
- (14) Osgood, C. E. & others., *The measurement of meaning*, Univer. Illinois Press. 1957.
- (15) 田中靖政『記号行動論——意味の科学』共立出版, 1967.
- (16) 金城光子・大城宜武「舞踊認知の因子分析的研究」体育学研究, 21-2 : 77-86, 1976.
- (17) 頭川昭子・松浦義行・川口千代「意味空間における舞踊のイメージ」体育学研究, 24-4 : 281-290, 1980.
- (18) 吉田瑞穂「創作ダンスに対して体育教師がいだく意識構造の計量分析」京都体育学研究, 2 : 1-8, 1987.
- (19) 長谷川美恵子・酒井紀子「ダンス嫌いの要因の分析——自己概念との関連から——」体育学研究, 26-1 : 1-10, 1981.
- (20) 西垣完彦・寺沢猛・中島豊雄「体育教師についての社会学的研究——高校生の体育教師イメージについて——」体育学研究, 15-5 : 40, 1970.
- (21) 野口義之『『よい授業への方法』を求めての基礎的研究（３）——学習集団の雰囲気の因子分析——』体育の科学, 30-9 : 665-670, 1980.
- (22) 花田敬一・清川勝行・恩田昌史・林正邦・藤井主計「スポーツとスポーツマンのイメージに関する研究（１）——SD法によるスポーツマンに対するイメージについて——」日本体育学会第23回大会号, P 117, 1972.
- (23) 花田敬一・大内勝夫・清川勝行「スポーツとスポーツマンのイメージに関する研究（６）——SD法によるスポーツに対するイメージについて：比較球技の立場から——」日本体育学会第29回大会号, P 172, 1978.
- (24) 花田敬一・古賀正躬・正木嘉美「武道に対するイメージについて——比較格技の立場から——」日本体育学会第36回大会号, P 740, 1985.
- (25) 橋本公雄・徳永幹雄「スポーツ行動概念の意味に関する因子分析的研究」日本体

- 育学会第32回大会号, P 254, 1981.
- (26) 浦田憲二「スキーに対するイメージとスキーの体験との関連——女子学生について——」日本体育学会第36回大会号, P 601, 1985.
- (27) (23)に同じ.
- (28) 三宅一郎・山本嘉一郎『SPSS 統計パッケージ I 基礎編』東洋経済新報社, P 164-170, 1980.
- (29) 三宅一郎・中野嘉弘・水野欽司・山本嘉一郎『SPSS 統計パッケージ II 解析編』東洋経済新報社, P 129-165, 1980.
- (30) 芝祐順『因子分析法 第2版』東京大学出版会, 1986.
- (31) A. L. コムリー, 芝祐順(訳)『因子分析入門』サイエンス社, 1986.
- (32) (15)に同じ.
- (33) 加賀秀夫「好きと嫌いの態度形成」体育科教育, 31-5: 32-34, 1983.
- (34) 船越正康「スポーツ嫌いとその背景」体育の科学, 38-4: 256, 1988.
- (35) Allport, G. W. 1935. Attitudes, In C. Murchison (Ed.) *A handbook of social psychology*. Clark Univ. Press. pp. 798-844. [八木晃(監)水原泰介(編)『講座心理学 13社会心理学』東京大学出版会. P 58, 1977. より引用]
- (36) Krech, D., Crutchfield, R. S. & Ballachey, E. L. 1962. *Individual in society*. McGraw-Hill. [八木晃(監)水原泰介(編)『講座心理学 13社会心理学』東京大学出版会, P 60, 1977. より引用]
- (37) 伊藤精男・波多野義郎「『体育授業ざらい』の生起に関する因果推論の試み」体育学研究, 27-3: 239-246, 1982.
- (38) 近藤義忠「運動好きと体育ざらい」体育科教育, 31-5: 32-34, 1983.